

斎藤茂吉は、日本を代表する歌人ですが、文学の研究者、精神科の医者としても活躍しました。

それら数々の業績を残した私たちの先輩のすばらしい足跡を、追ってみましょう。

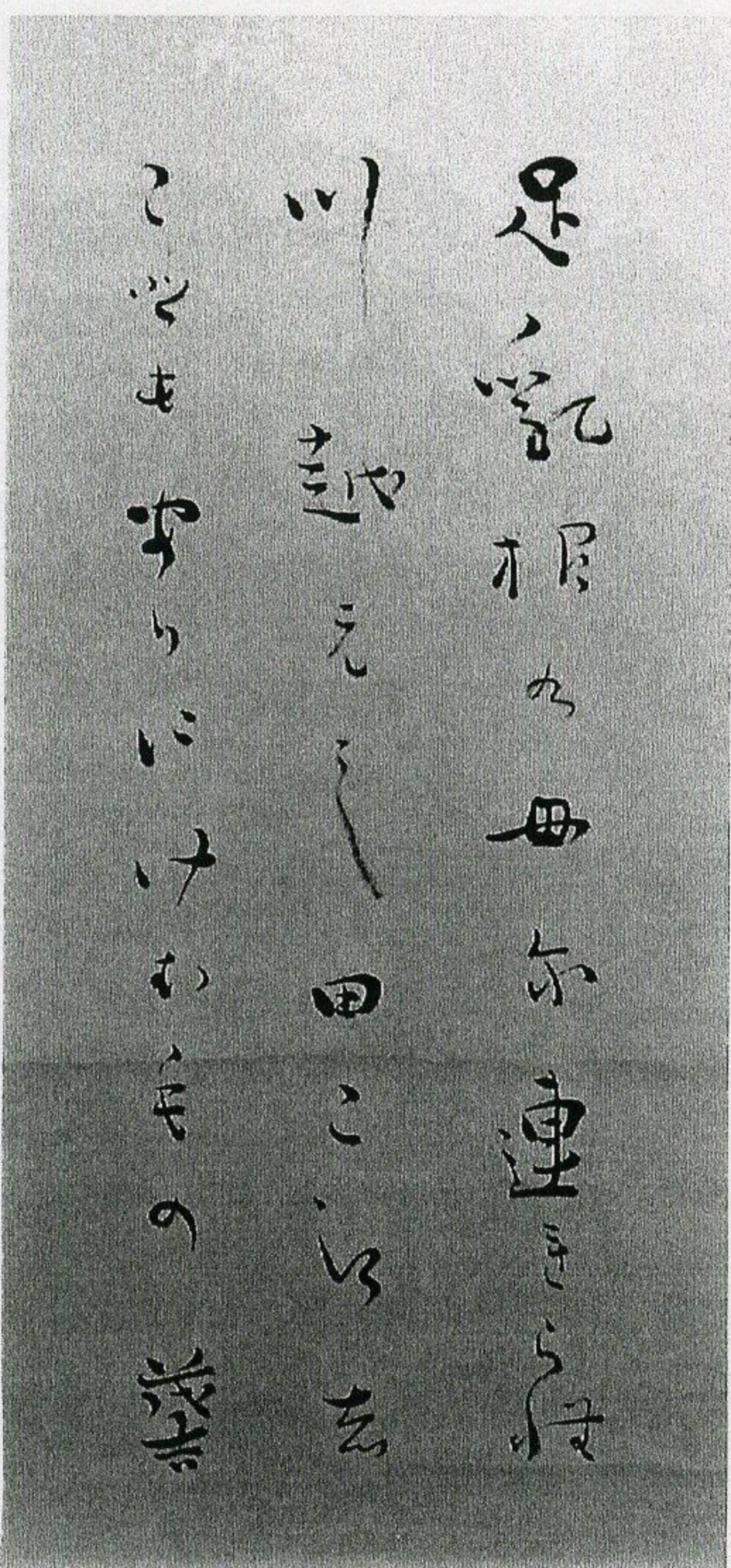
ふるさとを決して忘れることがなかった茂吉は、その思いを私たちになじみ深い作品として数多く残しました。

まずそのいくつかを紹介いたします。(これらは、県内各地の茂吉ゆかりの地に建つ歌碑の原稿となった作品です。)



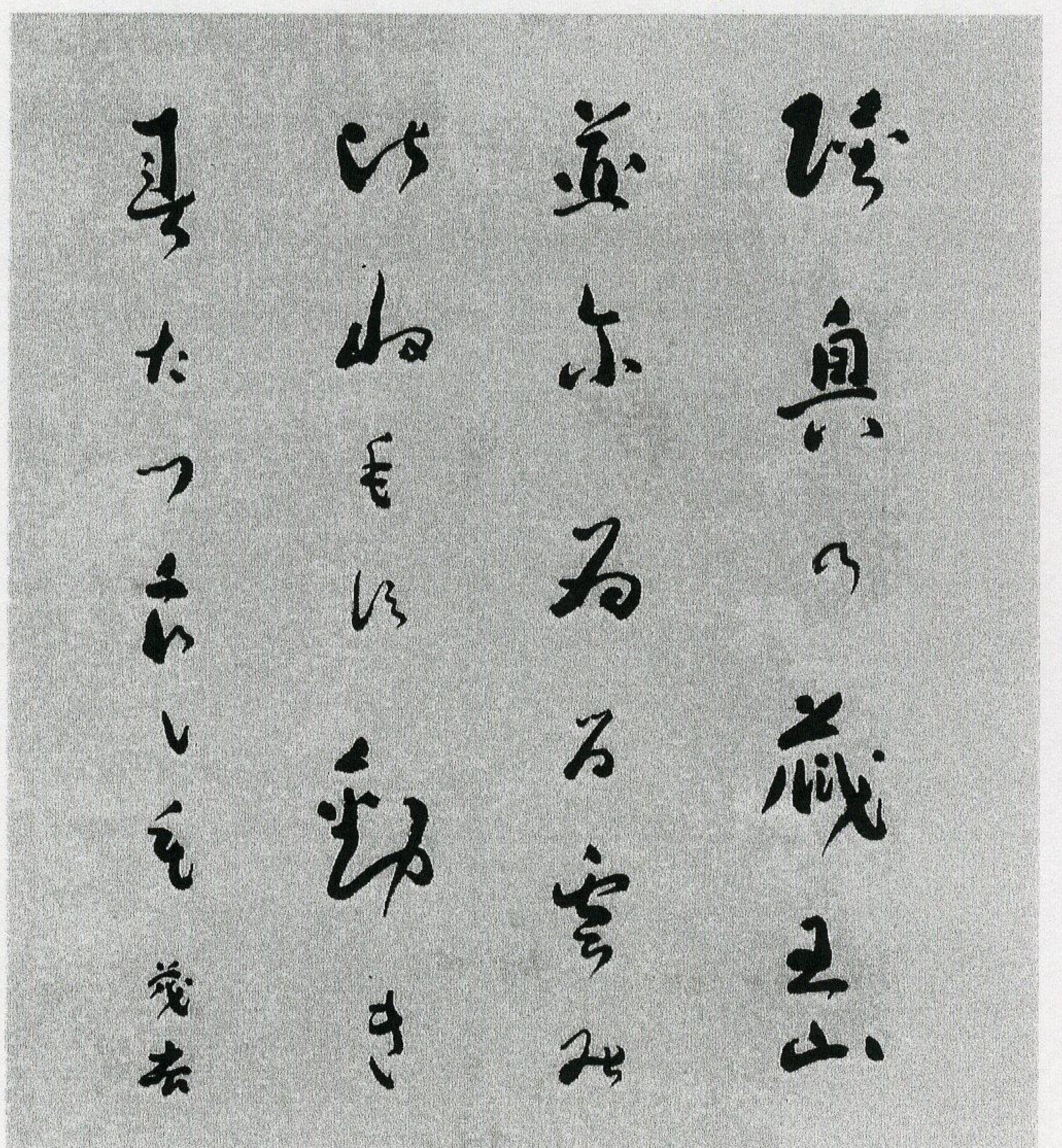
陸奥をふたわけさまに響えたまふ蔵王の山の雲の中にとつ  
 歌集『白桃』(昭和九年)

蔵王熊野岳山頂歌碑の原稿



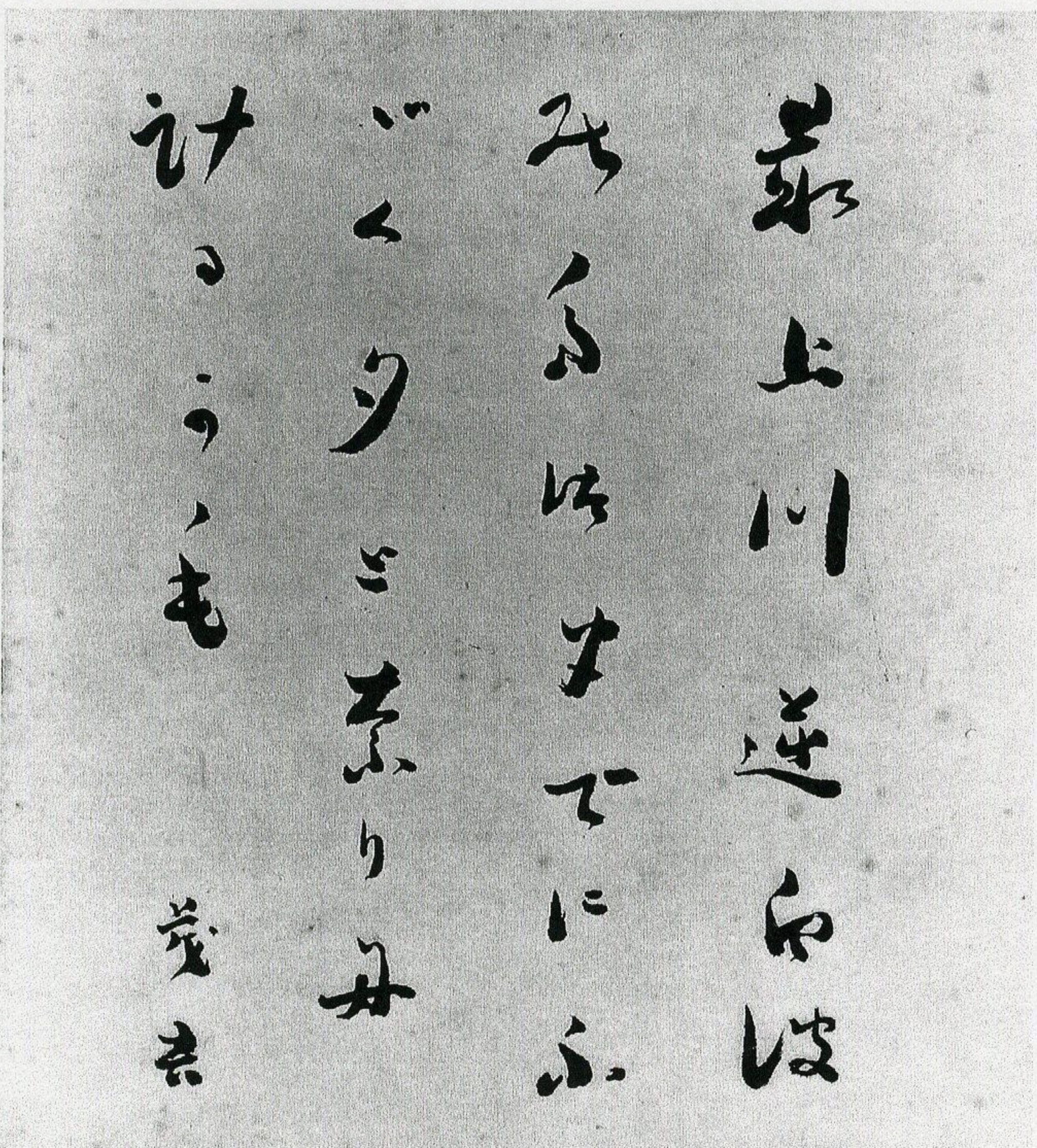
足乳根の母に連れられ川越えし田こえしこともありにけむもの  
 歌集『あらたま』(大正三年)

上山市月岡公園歌碑の原稿



陸奥の蔵王山なみにある雲のひねもす動き春たつらしも  
 歌集『霜』(昭和十七年)

蔵王観松平歌碑の原稿



最上川逆白波のたつまでにあぶくゆふべとなりけるかも  
 歌集『白き山』(昭和二十一年)

大石田町乗船寺歌碑の原稿